

第 125 回

2016.5.20

企業経営動向調査

公益財団法人 徳島経済研究所

調査目的	徳島県内の企業動向を的確に把握すること
対象企業	県内主要企業314社、回答企業198社、回答率63.1%
調査対象期間	2016年1～3月期の実績、4～6月期および7～9月期の予想
調査時点	2016年4月上旬～下旬

要約

1～3月期の業況判断は悪化 4～6月期、7～9月期はやや改善する見通し

県内企業（全産業）経営動向調査結果によれば、業況判断 B S I は、2015年10～12月期と比べ、2016年1～3月期（前期 当期：+1 16）は悪化した。また、前回調査時の予想（ 11）と比べてもやや低い。業種別では、製造業（同： 9 29）、非製造業（同：+5 11）ともに悪化しており、特に製造業が低い水準に留まっている。

先行きについては、4～6月期の業況判断（ 12）は、悪化を予想する企業の比率が低下していることなどから、やや改善する見通しである。また、7～9月期の業況判断（ 7）も、引き続きやや改善する見通しである。

1～3月期の設備投資は、実施企業の比率は前年同期より上昇し、総投資額も製造業の増加幅が大きく前年同期比21.3%増の約269億円となった。先行き4～6月期の計画については、実施企業の比率が前年同期と比べほぼ横ばいとなり、金額は同2.8%減の見込みである。

今後1年間の設備投資意欲については、製造業が改善の一方、非製造業は悪化し、全業種では前期と比べほぼ横ばいとなっている。

1. 概況
(全産業)

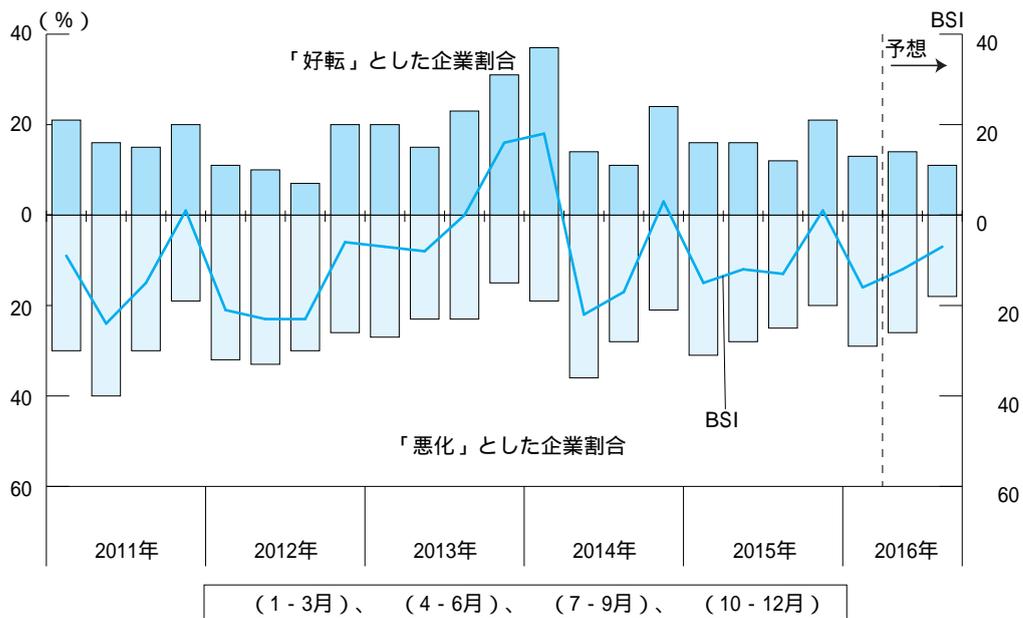
【2016年1～3月期の実績】 業況判断は悪化し、前回調査時予想よりもやや低い水準

県内企業の当期（2016年1～3月期、以下同じ）の動向をみると、好転とした比率の低下と悪化とした比率の上昇の両方とも目立ち、2期ぶりに悪化した。

BSI（業況が「好転（増加）」と回答した企業割合から「悪化（減少）」と回答した企業割合を引いた数値）でみると、前期に比べ、売上げBSIは19 9、収益BSIは15 8、業況判断BSIは1 16となっている。また、業況判断BSIは前回調査時の1～3月期予想（ 11）よりもやや低くなっている。

1～3月期の業況判断BSIを2011年からみると、 9 21 7 18 15 16（今回）となっている。概ね横ばいで推移している景気を反映し、前年同期とほぼ同水準の結果となった。

企業経営者による業況判断



図の見方

アンケートでは、売上げ、経常利益、業況の各項目について、前期に比べて「好転（増加）」「不変」「悪化（減少）」の回答を求めており、BSIはこのうち「好転（増加）」と回答した企業割合から「悪化（減少）」と回答した企業割合を差し引いた値です。

このBSIから、「売上げが何%伸びたか」など計数的な測定はできませんが、景気の転換点（景気の山、谷）や「好転感が県内の各企業にどの程度広がっているか」といった「浸透度」をみる事が可能です。

前期比は季節性が入りやすいので、前年同期と比較することも必要です。

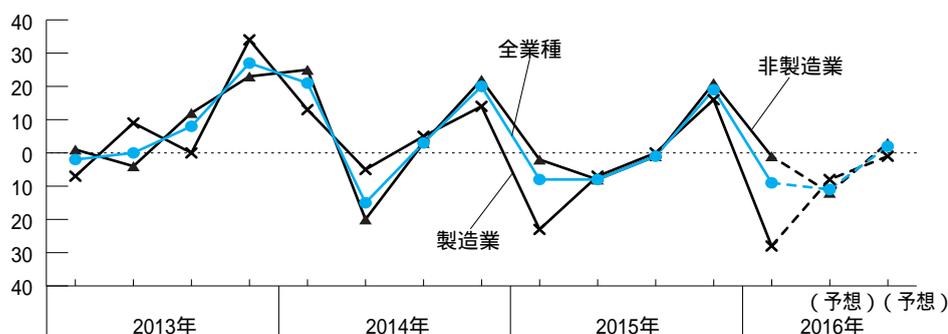
【2016年4～6月期の予想】 業況判断はやや改善する見通し

4～6月期の予想は、1～3月期に比べ、全業種の売上げBSI（9 11）はほぼ横ばい、収益BSI（8 14）は悪化、業況判断BSI（16 12）はやや改善、と分かれた見通しとなった。また、この業況判断BSIは、前年同期の実績（12）と同じとなった。

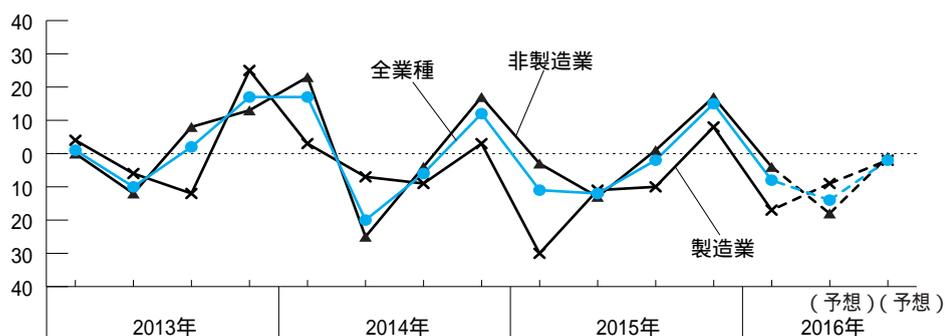
【2016年7～9月期の予想】 業況判断は引き続きやや改善する見通し

7～9月期の予想は、4～6月期に比べ、売上げBSI（11 2）と収益BSI（14 2）は改善、業況判断BSI（12 7）もやや改善する見通し。また、この業況判断BSIは前年同期実績（13）も上回っており、総じてみれば、先行きは改善が続くと予想される。

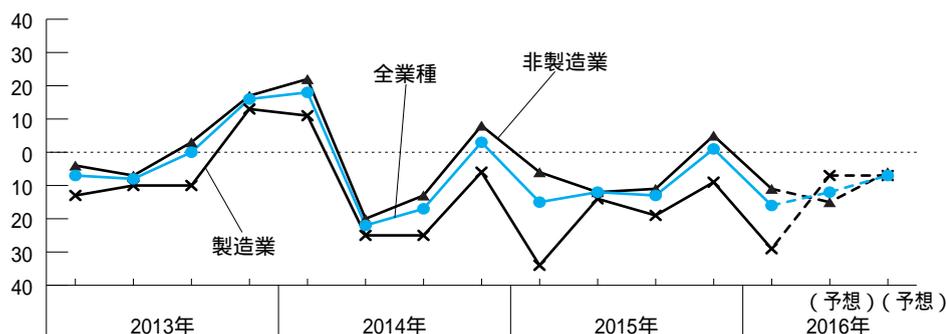
(1) 売上げBSI



(2) 収益BSI



(3) 業況BSI



2. 製造業の動向

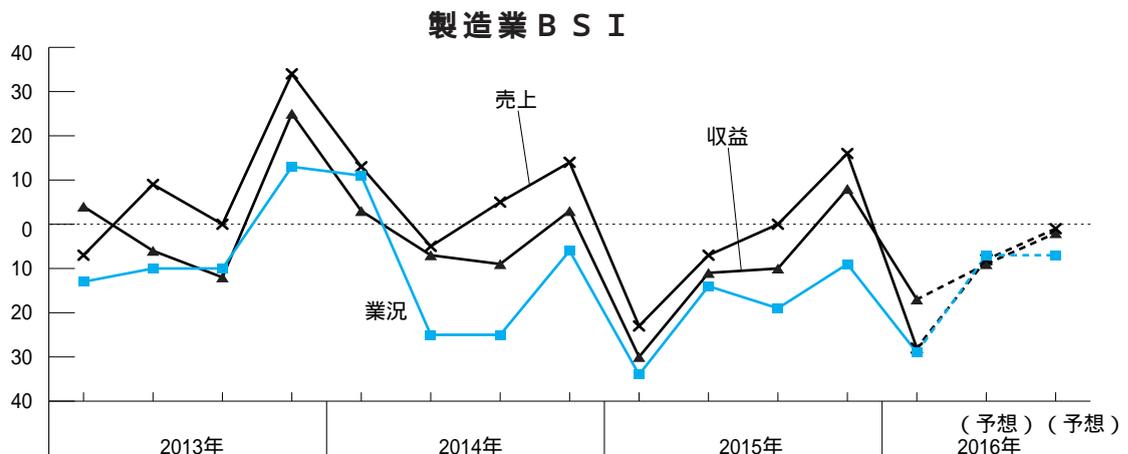
【製造業の現状】 業況判断は悪化し、前回調査時予想よりも低い水準

前期に比べ、売上げB S I (16 28 (前回調査時の予想 17))、収益B S I (8 17 (同 13))、業況判断B S I (9 29 (同 17)) はともに悪化した。前年同期と比べると、売上げB S I (23 28) はやや悪化する一方、収益B S I (30 17) は改善、業況判断B S I (34 29) はやや改善している。

【先 行 き】 業況判断は、4～6月期は改善の一方、7～9月期は横ばいの見通し

4～6月期の予想をみると、当期に比べ、売上げB S I (28 8)、収益B S I (17 9)、業況判断B S I (29 7) はともに改善する見通し。また、この業況判断B S I の予想は、前年同期 (14) を7ポイント上回っている。

一方、7～9月期の予想は、4～6月期予想に比べ、売上げB S I (8 1)、収益B S I (9 2) は改善する一方、業況判断B S I (7 7) は横ばいの見通し。一方この業況判断B S I の予想は、前年同期 (19) を12ポイント上回っている。



3. 非製造業の動向

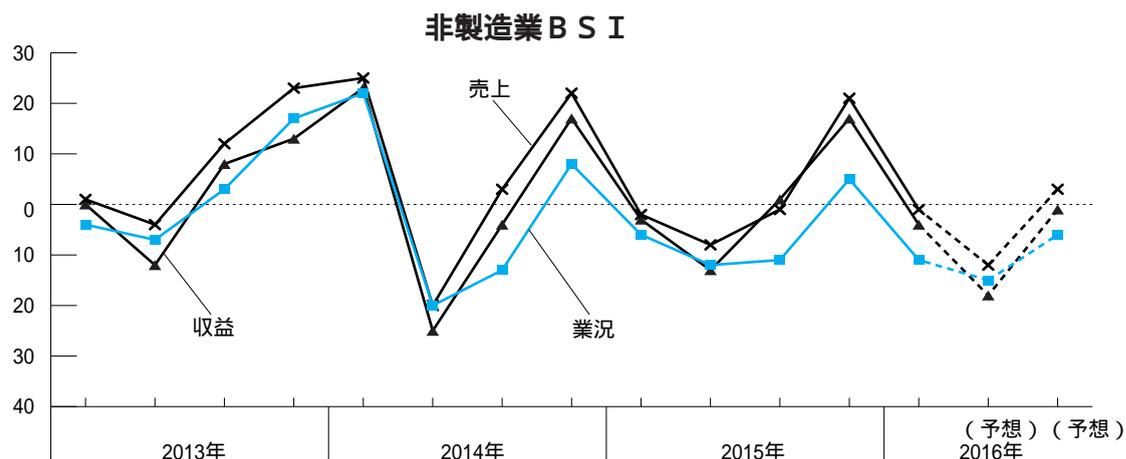
【非製造業の現状】 業況判断は悪化し、前回調査時予想よりもやや低い水準

前期に比べ、売上げB S I (21 1 (前回調査時の予想 3))、収益B S I (17 4 (同 4))、業況判断B S I (5 11 (同 8)) はともに悪化した。前年同期と比べると、売上げB S I (2 1)、収益B S I (3 4) はほぼ横ばいとなり、業況判断B S I (6 11) はやや低下している。

【先 行 き】 業況判断は、4～6月期はやや悪化の一方、7～9期は横ばいの見通し

4～6月期の予想をみると、当期に比べ、売上げBSI（12→11）、収益BSI（18→15）は悪化、業況判断BSI（12→11）もやや悪化する見通し。また、この業況判断BSIの予想は、前年同期（12）よりやや悪化している。

7～9月期の予想は、4～6月期予想に比べ、売上げBSI（12→13）、収益BSI（18→19）、業況判断BSI（15→16）はともに改善の見通し。また、この業況判断BSIの予想は、前年同期（11）を5ポイント上回っている。

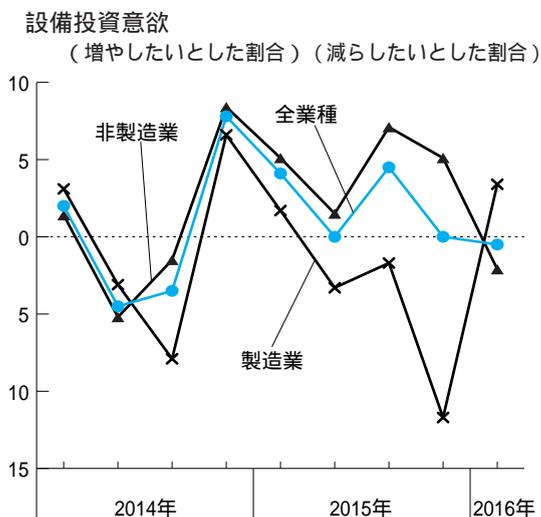


4. 設備投資の動向

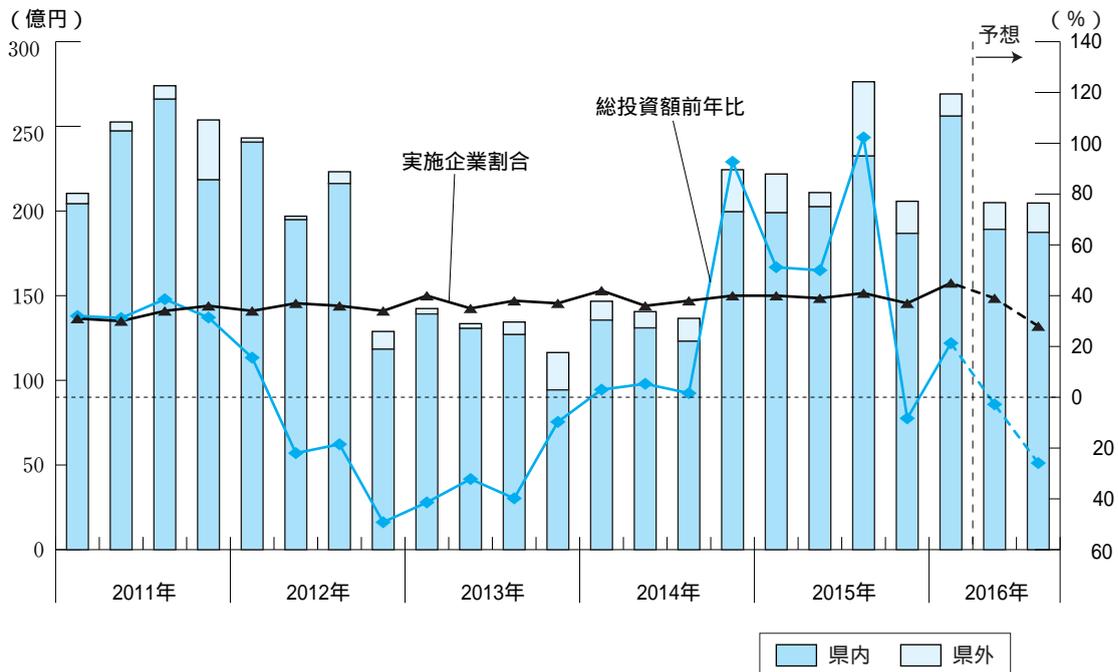
回答企業（全産業）のうち、当期において1百万円以上の設備投資（新規リース契約を含む）を実施した企業は全体の44.9%、総投資額は269億12百万円（うち、県内投資額は255億99百万円）であった。前年同期と比較すると、総投資額は、製造業で大幅に増加したことから、全体でも21.3%増となった（前期比でも30.8%増）。また、実施企業の割合も4.9ポイント上昇している。

一方、先行きの計画をみると、4～6月期の実施企業割合は39.4%で前年同期とほぼ横ばいであり、総投資額は約205億円で前年同期比2.8%減となる見込みである。7～9月期の総投資額についても、約205億円で同25.9%減の見込みである。

今後1年間の設備投資意欲（全産業）は、「増やしたい」が14.1%、「減らしたい」が14.6%、「ほぼ変わらない」が71.2%となった。「増やしたい」から「減らしたい」を差し引いた比率（0.5ポイント）は、前期と比べほぼ横ばいとなっている。



設備投資額（支払ベース）



製造業

当期に1百万円以上の設備投資を実施した企業の割合は、54.2%で前年同期より6.0ポイント上昇した。また、総投資額は、239億60百万円（同189億51百万円）で大手の電気機械や化学を中心に前年同期比26.4%増加、うち県内投資額は235億62百万円（同182億78百万円）となっている。

設備投資を目的別にみると、前期と比べ、「既存設備の補修更新」、「合理化・省力化」の比率が低下した一方、「増産・拡販のため」は上昇している。

一方、先行きの計画については、4～6月期の総投資額は約185億円で前年同期比0.8%減、7～9月期は約188億円で同18.6%減の見込みである。

今後1年間の投資意欲について、先行き「増やしたい」とする企業割合（22.0%）が「減らしたい」とする企業割合（18.6%）を3.4ポイント上回った。また、この差は7期ぶりに非製造業を上回っている。

非製造業

当期に1百万円以上の設備投資を実施した企業の割合は、41.0%で前年同期より4.5ポイント上昇した。また、総投資額は29億52百万円（同32億34百万円）で、小売やサービスで増加した一方、建設で大型太陽光発電への投資があった前年からの反動により、前年同期比8.7%減少した。県内投資額は20億37百万円（同16億17百万円）となっている。

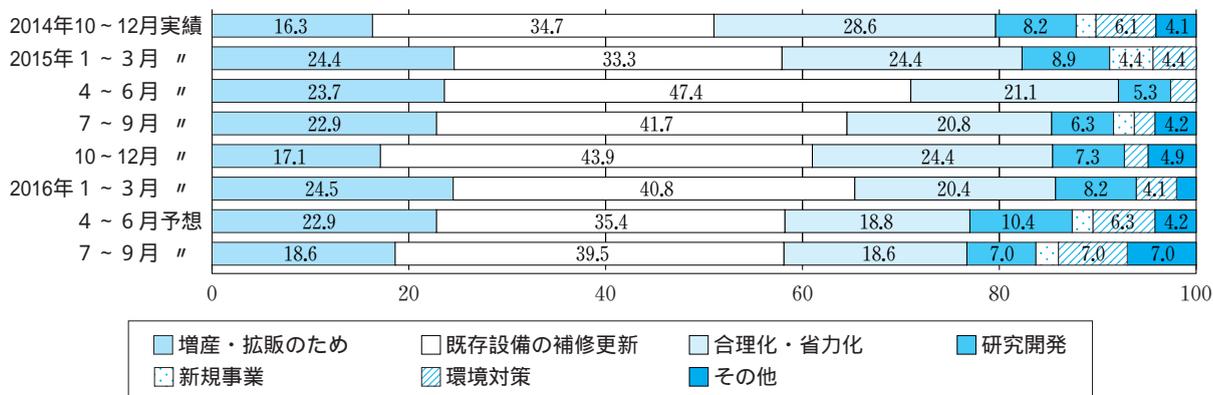
目的別にみると、前期と比べ、「既存設備の補修更新」が低下した一方で、「拡販のため」、「合理化・省力化」の比率が上昇している。

また、先行きの計画については、4～6月期の総投資額は約20億円で前年同期比18.2%減、7～9月期は約17億円で同63.4%減となる見込みである。

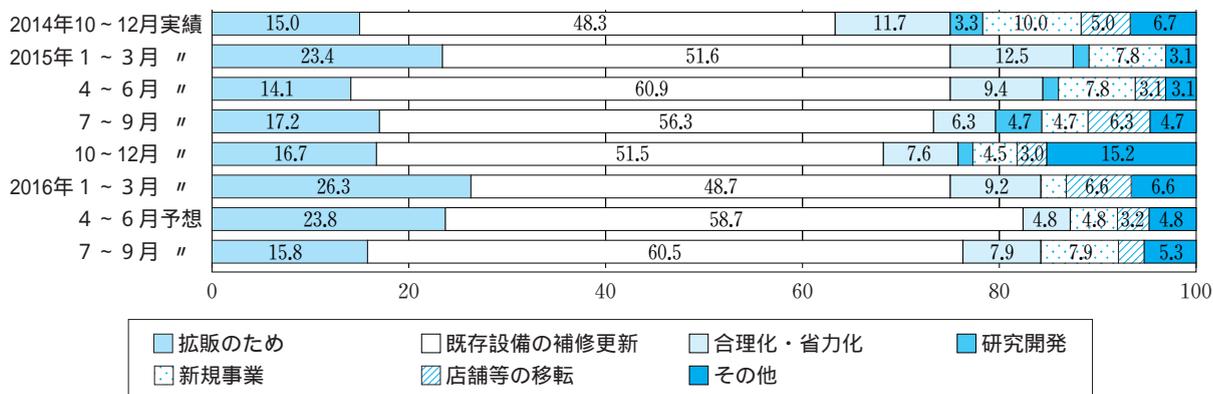
今後1年間の投資意欲は、先行き「増やしたい」とする企業割合（10.8%）が「減らしたい」とする企業割合（12.9%）より2.1ポイント下回った。また、この差は6期ぶりにマイナスとなった。

設備投資の目的

(1) 製造業



(2) 非製造業



(複数回答)

回答企業の概要

		(社)		
		総数	製造業	非製造業
資本金規模	1百万円未満	0	0	0
	1～3百万円未満	1	1	0
	3～5百万円未満	3	0	3
	5～10百万円未満	4	1	3
	10～50百万円未満	118	32	86
	50～1億円未満	44	16	28
	1億円以上	28	9	19
	計	198	59	139
従業員数	10人未満	17	7	10
	10～30人未満	45	10	35
	30～50人未満	41	11	30
	50～100人未満	38	7	31
	100～200人未満	31	11	20
	200～300人未満	8	5	3
	300～	18	8	10
	計	198	59	139

	業種	回答
製造業	食料品	8
	繊維製品	4
	木材・木製品	10
	パルプ・紙	2
	化学工業	7
	窯業・土石	6
	機械・金属	17
	その他	5
	計	59
	非製造業	建設業
運送業		14
卸売業		38
小売業		28
サービス業		40
その他		1
計	139	
総数	198	

参考資料

B S I

(1) 業況判断

(単位：%，ポイント)

	全産業				製造業				非製造業			
	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI
2014年7～9月実績	11	61	28	17	9	57	34	25	12	63	25	13
10～12月 "	24	55	21	3	20	54	26	6	27	54	19	8
2015年1～3月 "	16	53	31	15	9	48	43	34	20	54	26	6
4～6月 "	16	56	28	12	20	46	34	14	14	60	26	12
7～9月 "	12	63	25	13	12	57	31	19	11	67	22	11
10～12月 "	21	59	20	1	18	55	27	9	22	61	17	5
2016年1～3月 "	13	58	29	16	7	57	36	29	16	57	27	11
4～6月予想	14	60	26	12	15	63	22	7	13	59	28	15
7～9月 "	11	71	18	7	12	69	19	7	11	72	17	6

(2) 売上げ判断

(単位：%，ポイント)

	全産業				製造業				非製造業			
	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI
2014年7～9月実績	31	41	28	3	33	39	28	5	30	43	27	3
10～12月 "	44	32	24	20	39	36	25	14	46	30	24	22
2015年1～3月 "	28	36	36	8	22	33	45	23	31	36	33	2
4～6月 "	29	34	37	8	31	31	38	7	28	36	36	8
7～9月 "	27	45	28	1	32	36	32	0	25	49	26	1
10～12月 "	41	37	22	19	43	30	27	16	41	39	20	21
2016年1～3月 "	28	35	37	9	19	34	47	28	32	35	33	1
4～6月予想	20	49	31	11	22	48	30	8	20	48	32	12
7～9月 "	21	60	19	2	24	51	25	1	20	63	17	3

(3) 経常利益判断

(単位：%，ポイント)

	全産業				製造業				非製造業			
	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI
2014年7～9月実績	26	42	32	6	25	41	34	9	26	44	30	4
10～12月 "	36	40	24	12	31	41	28	3	39	39	22	17
2015年1～3月 "	26	37	37	11	22	26	52	30	28	41	31	3
4～6月 "	24	40	36	12	28	33	39	11	22	43	35	13
7～9月 "	27	44	29	2	29	32	39	10	26	49	25	1
10～12月 "	36	43	21	15	35	38	27	8	36	45	19	17
2016年1～3月 "	26	40	34	8	20	43	37	17	29	38	33	4
4～6月予想	19	48	33	14	22	47	31	9	17	48	35	18
7～9月 "	18	62	20	2	22	54	24	2	17	65	18	1

(注) B S I =(好転)-(悪化)